

摂食障害と私

B氏（10代）

両親の離婚に伴い環境が大きく変わりました。長子であり「家族を支えない」と自分にプレッシャーを与えていたのかもしれませんが、徐々に食事が摂れなくなり、小5の夏に脱水のため入院をしました。1週間ほどで退院となりましたが、体力・気力共に減退し学校に通うことが難しくなりました。一時回復し小学校を卒業することは出来ましたが、中学に入り生徒数が増えた事や課題の多さなどに面喰い、食事が摂れなくなり入院となりました。この時は経管栄養を必要とするほど衰弱しており治療に3カ月かかりました。退院後は教室の雰囲気馴染めず別室登校で中学時代を過ごしました。勉強は嫌いではなかったため、無理なく通える事を考慮し定時制高校に進みましたが、2年時のクラス替えによる環境の変化や部活動のハードな練習についていけず、再び食べる事が出来なくなり、2つの病院で計6ヶ月に渡って治療を受けました。退院後は不登校となり、このままでは駄目だと思い他の学校へ編入しましたが、結局続かず中退しました。そうしている間も食べられない状態は続いており、様々な病院を転々とし、都度入院治療を受けましたが改善することはなく「食べなくても生きていけたら良いのに。食べないで生きていきたい。それが幸せ。」と思うようになりました。

このような状態でしたので、当時治療を受けていた病院から、これ以上は診れませんと診療を断られてしまい、「このままでは痩せ続けて死んでしまう」と必死に病院を探していたところ札幌太田病院に出会いました。当初は外来通院のみでしたが、「本気で治そう」と決意し、自分から希望して入院治療を開始しました。初日は1日800KCalと少ないエネルギー摂取から始まりましたが、それも食べる事が出来ず、翌日には低血糖を起し経管栄養となりました。約2ヶ月経管栄養を続けながら、少しずつ食事から栄養を摂る事に挑戦していきました。当初は一回の食事に4時間ほど時間を要しました。それが1日3回やってくるので、今思い起こしても地獄の毎日でした。それでも毎回スタッフが見守り応援してくれたことで頑張る事が出来ました。初めて完食できた時には、スタッフの皆が喜び拍手を送ってくれ、本当に嬉しかったです。入院治療は半年と長い期間を要しましたが、食べる事の大切さを学ぶことが出来ました。

現在はデイケアに通い通院治療を継続しています。食べる事が怖い時もありますが、「完食」を意識して取り組んでいます。「食べないで生きることが幸せ」と考えていた私が「食べれば何でも出来て幸せ」に変わりました。今では大好きな音楽活動やスポーツに打ち込める体力もつき、仲間と食事を楽しめるようにもなりました。今まで関わって下さった沢山の方に感謝の思いを伝えたいです。「食べられる幸せ」を知ることが出来、人生が大きく変わりました。まだ治療は続いていきますが、これらかも自分を大事にしながら過ごしていきたいと思えます。